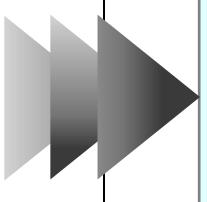
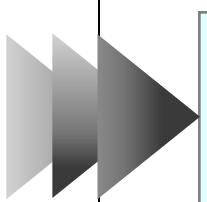
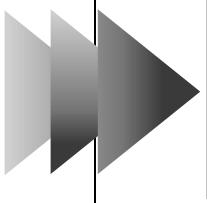


研究授業のご意見

自立

手だて②	予想する生徒の姿
<p>「言葉」と「身体の変化」から気持ちに気付くことができるということを知るために、気持ちに気付くスキルを黒板に提示し、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちに気づくための手掛かりが体系的に示され、生徒も分かりやすく、順を追って言葉を写していた。 ・「言葉」と「身体」にカテゴリー分けしたことにより、それぞれの意味合いが分かりやすかったが、それとの関係を図式化すると、さらに分かりやすい。 	 <p>気持ちを表す言葉はたくさんありますね。気持ちによって身体も変化するんだね。</p>
<p>自分が主人公の立場だったら、どんな気持ちかを考えるために、イラストの場面を教師が演じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラストと事実のみで分かりやすく場面を区切っていてよい。どこに注目したかを聞き返してもよい。 ・イラストが必要部分だけで、すっきりしていて分かりやすい。 ・イラストがあることで表情に注目し、考えられていた。「観る」スキルの顔、態度に目を向けられていた。 	 <p>メンバーに選ばれてうれしい。いい記録を出せるようにがんばるぞ。</p> <p>「えっ、どうして」友達の記録を素直に喜べない。</p>
<p>その感情のとき、どのような身体の変化があるかを考えるために、気持ちを表す言葉を考え、4つの状態(喜怒哀楽)に分類させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つの言葉に複数の状態があるということに気づくことができた。 ・言葉を貼るときに、そう考えた理由などを話すことにより、気持ちに気づくスキルが高まっている。 ・気持ちに伴う身体の変化について、各自で考え、言葉で表すことができている。 ・気持ちを表す言葉を4人でテーブルを囲んで確認しあうのは分かりやすい。 	 <p>イライラすると落ち着きがなくなって、眠れなくなる。</p> <p>わくわくすると、興奮するし、笑顔になる。</p>
<p>今日のゴールをもう一度提示し、自分も他者も複雑な感情をもっていることを確認するために、振り返りの視点を【①分かったこと】に設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなときに使えるか、視点を与えることで、より実生活に使えるので良い。 ・自分の気持ちと他人の気持ちを区別して考える場を設けるとさらによい。 ・社会に出たときに役立ちそうと、今日手に入れたスキルを実践してみたいという姿があった。 	<p>①分かったこと</p> <p>すごく複雑な感情があることにも気づいた。自分は「イライラ」を出しやすいタイプだと思った。今までイライラして物や人に当たっていたことがあったけど、これからは自分の気持ちに気付いて落ち着きたい。</p>
<p>授業者の振り返り</p> <p>人に見られること、人混みが苦手な生徒たちが全員休まずに逃げずに授業に参加できたことが一番嬉しかったです。生徒たちは緊張で授業中での発言は控え目でしたが、自分の頭の中で一生懸命思考していたように思います。今回は自情学級での自立活動ということで、ソーシャルスキルトレーニングの授業を提案させていただきました。授業の中で生徒たちが社会に出たときに役立ちそうと、今日手に入れたスキルを実践してみたいという姿に学びをたのしむ姿があったように思います。気持ちに気づくスキルの「言葉」と「身体」の関係を図式化すると、さらに分かりやすいという意見や、自分の気持ちと他人の気持ちを区別して考える場を設けるとさらによいなどの意見をいただけたので、生徒たちがより学びやすい授業展開の工夫や支援をしていきたいと思います。</p>	